

ispace, 「HAKUTO-R」ミッション2 に関して宇宙資源法に基づく  
「宇宙資源の探査及び開発の許可」を内閣府より取得

株式会社 ispace（東京都中央区、代表取締役：袴田武史、以下 ispace）（証券コード 9348）は本日、最速 2025 年 1 月に打ち上げを予定しているミッション 2 に関して、内閣府より宇宙資源の探査及び開発の許可を取得しましたので、お知らせいたします。

ispace は、ミッション 1 に向けて 2022 年 11 月に国内の第一号案件として内閣府より本許可を取得しており、今回は 2 度目の許可取得となります。

このたびの、宇宙資源の探査及び開発に関する事業活動の促進に関する法律（宇宙資源法）に基づく「宇宙資源の探査及び開発許可」は、最速で 2025 年 1 月にもフロリダ州ケープカナベラルから Space X 社の Falcon 9 ロケットの打ち上げ予定に先駆けて、本日、2024 年 12 月 17 日より有効となります。

■ 城内内閣府特命担当大臣 宇宙政策担当大臣 のコメント

「本日、宇宙資源法に基づき、株式会社 ispace による月面資源開発計画を許可しました。宇宙資源法に基づく第二号の許可案件となり、第一号案件も同社が当時、民間企業としては世界初となる月面への軟着陸を試みた事案でありました。第二号案件は第一号案件の経験を糧にした再挑戦のプロジェクトとなるため、政府としても成功を見守りたいです。また、本許可に沿って、同社が月面資源の所有権を顧客である、米国 NASA に移転すれば、月面資源の商業取引として日本初の事例となります。宇宙開発利用が活発になる中、米国欧州をはじめとする関係国と連携し、本法律に基づく民間事業者による資源利用の実績を積み上げ、国際社会でのプレゼンスを高めていきたいです。」

■ ispace 株式会社 CEO & Founder 袴田武史のコメント

「ispace の月面での活動計画が許可されたことを大変嬉しく思います。ispace のミッション 2 では採取する月のレゴリスを NASA に譲渡しますが、本取組は今後の商業的な宇宙資源利用の礎になると考えています。官民さまざまな関係者を巻き込んでシスルナ（月と地球との空間）経済圏構築を進め、人類の生活を支えていく宇宙規模のエコシステムの実現に貢献してまいります。」

この許可により、NASAと契約した月資源の商取引が行われます。NASAとの月資源商取引プログラムにおいて設定されている NASA への月のレゴリスの譲渡は、ミッション 2 において ispace のランダー（月着陸船）が月面に着陸後に行われる予定です。月のレゴリスはランダーのフットパッドで採取を予定しています。ランダーには着陸時の衝撃を吸収するために着陸脚先端にフットパッドを搭載しており、ランダーの着陸時に、その衝撃により舞い上がったレゴリスが、この4つのフットパッドに堆積することを想定しています。フットパッドに堆積したレゴリスは、ローバーに搭載したカメラによって撮影し、撮影画像を確認した後、レゴリスの所有権を NASA に移転する商業取引を行う計画です。なお、本取引はレゴリスの物理的な受け渡しを伴うものではありません。

また、ispace の欧州法人である、ispace EUROPE S.A.（以下 ispace EUROPE）と NASA の締結した月資源に関する商取引プログラムにより、ispace EUROPE は TENACIOUS（テネシアス）ローバーに搭載されたスコップで月面のレゴリスを採取し、撮影をした採取物の所有権をその場で NASA に譲渡します。

ispace は、日・米・欧の 3 法人でそれぞれの地域の文化や多様性を活かしながら、1 つの統合的なグローバル企業として宇宙開発を進めてまいりました。最速 2025 年 1 月に日本法人が主導するミッション 2、続いて 2026 年には米国法人が主導するミッション 3 を順次実行していく計画です。また、2027 年には、現在日本で開発中のシリーズ 3 ランダー（仮称）を用いたミッション 6 を予定しています。世界中の政府、企業、教育機関からの高まる需要に応えるため、ispace はミッション 3 およびそれ以降のミッションのペイロードサービス契約とデータサービスを提供してまいります。

#### ■ 株式会社 ispace ( <https://ispace-inc.com/jpn/> )について

「Expand our planet. Expand our future. ~人類の生活圏を宇宙に広げ、持続性のある世界へ~」をビジョンに掲げ、月面資源開発に取り組んでいる宇宙スタートアップ企業。日本、ルクセンブルク、アメリカの 3 拠点で活動し、現在約 300 名のスタッフが在籍。2010 年に設立し、Google Lunar XPRIZE レースの最終選考に残った 5 チームのうちの 1 チームである「HAKUTO」を運営した。月への高頻度かつ低コストの輸送サービスを提供することを目的とした小型のランダー（月着陸船）と、月探査用のローバー（月面探査車）を開発。民間企業が月でビジネスを行うためのゲートウェイとなることを目指し、月市場への参入をサポートするための月データビジネスコンセプトの立ち上げも行う。2022 年 12 月 11 日には SpaceX の Falcon 9 を使用し、同社初となるミッション 1 のランダーの打ち上げを完了。続くミッション 2 の打ち上げを最速 2025 年 1 月<sup>i</sup>に、ミッション 3 を 2026 年<sup>ii</sup>、ミッション 6 を 2027 年<sup>iii</sup>に打ち上げを行う予定。

ミッション 1 の目的は、ランダーの設計および技術の検証と、月面輸送サービスと月面データサービスの提供という事業モデルの検証および強化であり、ミッション 1 マイルストーンの 10

---

段階の内 Success8 まで成功を収めることができ、Success9 中においても、着陸シーケンス中のデータも含め月面着陸ミッションを実現する上での貴重なデータやノウハウなどを獲得することに成功。ミッション 1 で得られたデータやノウハウは、後続するミッション 2 へフィードバックされる予定。更にミッション 3 では、より精度を高めた月面輸送サービスの提供によって NASA が行う「アルテミス計画」にも貢献する計画。

---

i 2024 年 12 月時点の想定

ii 2024 年 12 月時点の想定

iii 2024 年 12 月時点の想定